

統計データと実態を結びつける・・・コンビニは何の代わりか？

弊社のある子飼商店街と周辺地域について、統計データを調べてみた結果、以下のようなことが分かりました。

30年前に比べると、子どものいる世帯が大幅に減少している。高齢者は大幅増加。

熊本大学、熊本学園大学があるので、若者の数は、30年変わらず一定である。

商店街の通行量は、この25年間で半減した。時間帯別に見ると、午前中の買い物客が大幅に減少し、夕方だけは増加している。

子飼商店街界隈は学生の街です。昭和40年代までは、まだ、まかない付きの下宿が多く、下宿屋のおばちゃんが食材の買物にきていました。おばちゃんたちは、野菜でも味付け海苔でも、箱ごと買っていきました。おばちゃんたちは、朝のうちに買出しに来ていました。

また、当時は、このあたりにも子育て中の若い親がたくさん住んでいて、食べ盛り、育ち盛りの子どものために、いろんなものを買っていきました。子どもがいる世帯は、消費が盛んです。飲食業の人たちも、食材を箱ごと買っていきました。下宿屋のおばちゃんたちも結構お金持ちでしたから、買物もしてくれました。今では、当時おばちゃんだった人たちも、おばあちゃんになってしまいました。まかない付きの下宿は、探しても見つからない時代です。

熊大でも学園大でも、学生の数は一定しており、商店街周辺には、一人暮らしの学生がたくさん暮らしています。今の大学生も当然、毎日食事をします。ただし、コンビニ弁当を食べたり、ファミレスで399円ランチを食べるようになりました。

コンビニの弁当は、契約工場で作ったものを毎日何回もトラックで運んできます。ファミレスの料理は、九州に一箇所というような大きな工場一括して作られており、冷凍されて運ばれてきます。そして、これらの材料は、全世界から調達されます。商店街では調達しません。

子飼商店街の周辺には、あいかわらず多くの学生や市民が暮らしていますが、商店街で買物をしない人に変質してしまいました。学生にとって、コンビニやファミレスは、実は、まかない付き下宿の代わりであると言えます。熊大門前のコンビニの売上は、九州一だそうです。男性の一人暮らし高齢者にとっても、コンビニは欠かせない存在になっています。

「おーい、お茶。」「おかあさん、お腹すいた、なんかない。」と言う、お父さんや子どもに、すぐに応えてくれたのが昔の専業主婦のおかあさんであり、その代わりをするのが下宿屋のおばちゃんだったわけですが、今は、コンビニやファミレスがその代わりをしているという見方ができます。

コンビニでアルバイトをしているのは大学生で、稼いだお金で、上乃裏通りあたりでワインを飲んでいます。昔の下宿屋のおばちゃんのように、通ったついでに何か買ってくれるわけはありません。商店街の売上が上がらないわけです。・・・コンビニやファミレスが、まかない付き下宿の代わりであるなら、今の時代、子飼商店街の役割は、いったい何でしょうか。データ分析から出発して、そのようなことを考えてみるのも面白いですね。